

フジシール財団 研究助成事業
成果報告書

公益財団法人フジシール財団
理事長 岡崎 裕夫 殿

報告日 2022年4月27日

研究課題	パッケージ（包装容器）におけるエモーショナル要素の指標研究 とそれを活用した容器の提案	助成金額
		100万円
ふりがな	はしだ のりこ	研究助成申請年度
研究者氏名	橋田 規子	2020年度
所属機関	芝浦工業大学	研究期間
		2021年4月～2022年4月
役職	教授	
連絡先	〒108-8548 東京都港区芝浦 3-9-14 芝浦工業大学 TEL 090 (5523) 0658 E-mail hashida@shibaura-it.ac.jp	

下記の通り、研究成果を報告いたします。

記

1. 研究成果の概要（こちらに報告いただいた内容はそのまま当財団ホームページ上で公開します。）

研究目的

従来、お菓子パッケージは、売れるために「美味しそう」や「目立つ」ことが重視されてきたが、これからは「エコロジー」や「ヘルシー」に見えることも販売に貢献できるのではないかと考えた。研究では、環境配慮かつ健康志向を感じさせるお菓子パッケージの要素抽出と指標を明確化する。また、その指標を活用して、環境配慮と健康志向を感じさせるお菓子パッケージの提案をする。

研究方法

- 既存のお菓子パッケージに対して「エコロジーさ」と「ヘルシーさ」を感じるかについて調査
- アンケート結果から、数量化理論Ⅰ類を用いてエコロジーさとヘルシーさに寄与する要素を抽出
- 数量化理論Ⅰ類で求めた要素についての一対比較法と、具体的な構成要素の評価アンケートを実施
- お菓子パッケージアイデアの展開と検証
- パッケージデザイン提案と検証
- パッケージを製作し、提案物の印象を調査
- 評価をもとにした最終デザインの提案

研究成果

- 若者が好むお菓子63種類と栄養補助食品4種類について、そのパッケージ「エコロジーさを感じるか」と「ヘルシーさを感じるか」の評価アンケートを行った。
- aの結果から、数量化理論Ⅰ類による分析を行った。「エコロジー」においては「紙箱」「ロゴが小さい」

「全体的な色味が中性色」「正面プロポーションがその他」の貢献度が高く、「ヘルシー」においては「商品画像がなし」「全体的な色味が中性色」「正面プロポーションが縦長」「光沢なし」の貢献度が高い結果となった。

c. エコロジーさとヘルシーさを感じる度合が0%であったお菓子パッケージ3種類に対し、以下A～Gのパッケージ画像を作成。7種類のパッケージに対して「エコロジーさ」と「ヘルシーさ」を感じる度合の対比較法を実施し、より詳しく傾向を調査した。

- A. デフォルトのパッケージ B. 全体的な色味を緑色にしたパッケージ
- C. 全体的な色味を紫色にしたパッケージ D. 商品画像がないパッケージ
- E. ロゴが小さいパッケージ F. 「B・D・E」の要素を合わせたパッケージ
- G. 「C・D・E」の要素を合わせたパッケージ

結果として、どちらにおいてもFのパッケージが最も感じる度合が高く、一方でCが最も低かった。この結果とBも度合が高かったことから、色味として中性色の「緑色」が有効であることが確認でき、Fに取り入れられている「商品画像がない」「ロゴが小さい」の要素も有効であることが確認できた。

また、色味・フォント・形状・素材に対して「好感度」「エコロジーさ」「ヘルシーさ」の評価アンケートを実施した。結果は、色味では「グリーン(10GY)」、フォントでは「チョコレート効果(細めで装飾性の少ないフォント)」、形状では「パウチ型」、素材では「紙」が、3つの評価平均が最も高かった。

d. 調査の結果から得た6つの要素を満たすパッケージの提案として、健康志向の米粉を使用したスナック菓子を想定。加えてゴミかさを減らせる環境配慮型パッケージのアイデア展開を行った。

e. 止め型パッケージと折る型パッケージについて、学生12名を対象に「エコロジーさ」「ヘルシーさ」「好感度」「捨てやすさ」の4点を評価するヒアリングを実施した。結果として、エコロジーさ・ヘルシーさ・好感度においては折る型パッケージ、捨てやすさに関しては止め型パッケージの方が高評価となった。エコロジーさ・ヘルシーさ・好感度において2.5以上の評価を得たことと、捨てやすさの面を考慮し、最終提案物を「止め型パッケージ」に決定した。

g. 最終提案物である「止め型パッケージ」は、紙製一次包材の利用を想定している。また、中身のお菓子が米粉を使用したスナック菓子の想定であるため、商品名を「お米CHIPS」とし、細めのフォントによるロゴデザインを行った。寸法は幅140mm、高さ150mm、マチ50mmであり、自立性のあるパッケージとなっている。基本の色としてマンセル表色系の7.5GY8/8の緑色を使用、広がらないように止める部分と折る線の部分には7.5Y9/6の黄色を使用している。裏面に折って捨てる様子のイラストを情報として掲載し、折りたたんでコンパクトにして捨てるように誘導する。

おわりに

パッケージデザインに環境や健康への配慮を表現する要素とその指標として、「黄色に近い緑」「自立性のあるパウチ型」「文字幅が細めでシンプルなフォント」「紙素材」「商品画像が無い」「ロゴが小さい」という6つの項目を抽出することができた。これらの要素は、環境配慮型パッケージの需要と健康志向の高まっている現状で、お菓子パッケージをデザインする上で活用できると考えられる。また、「止め型パッケージ」における折りたたんでコンパクトにできる構造は、ゴミ処理コストの削減に加え、近年の公共の場におけるゴミ箱撤去の問題においても活用できるのではないかと考えられる。

2. 研究成果のパッケージ産業への貢献の可能性（こちらに報告いただいた内容はそのまま当財団ホームページ上で公開します。）

本研究では、エコロジーとヘルシー志向を感じさせるお菓子パッケージデザインの要素を抽出し、指標を提示することができた。これらの要素は、環境配慮型パッケージの需要と健康志向の高まっている現状で、お菓子パッケージをデザインする中の指標のひとつになると考えられる。前提として、本研究の成果を活用する企業は、実際に環境や健康への配慮をしている企業とする。環境や健康への配慮という企業の努力をパッケージデザインに表現することで、市場から良い印象を持ってもらうことができ、販促に繋がると考える。

誌面の都合で省いたが、並行して「環境配慮を感じさせる化粧品パッケージデザインの研究」も実施した。現状調査として「化粧品容器に対して環境配慮を気にする消費者が増えているのではないかと仮説を立て、女性を対象に実施したが、仮説に反して容器や環境配慮の重視度は低く、内容物の重視度が高かった。しかし、今後も環境配慮は求められるため、消費者にそれを啓蒙する目的で本研究を行う意義があると考え、研究を進めた。既存化粧水容器50製品に対し、「環境に優しい印象」「高級感」「好感度」をどれだけ感じるか4段階で評価してもらった。「環境に優しい印象」の評価が高い化粧品容器は「好感度」も高いことが分かった。この4段階の評価結果と、デザイン要素でカテゴリー分けしたデータを用いて、各印象に影響を与えるデザイン要素を抽出した。「環境に優しい印象」に影響を与えるデザイン要素を求めたところ、「胴はまっすぐ」「無彩色」断面は円」「無彩色か透明」「光沢は無し」という結果となった。この指標についても、環境配慮を感じさせる化粧品容器のデザインに活用できると考える。

従来、お菓子パッケージではおいしそうな印象、化粧品容器では、気分が上がるような印象が必要であったが、今後は、エコロジーとヘルシー志向に見えることも、販促に貢献していくのではないかと考える。

3. 学会発表、学会誌等への論文掲載、産業財産権出願などの実績（現時点で未発表・未掲載・未出願のため、上記「1. 研究成果の概要」、「2. 研究成果のパッケージ産業への貢献の可能性」の当財団ホームページ上の公開の延期を希望される場合、その旨 記載してください。）

2022年3月25日 日本感性工学会春季大会で口頭発表をおこなった。橋田規子 松本莉奈「エコロジーとヘルシー志向を感じさせるお菓子パッケージデザインの研究」